

短太系のニガウリ(アバシ)を改良した 新品種「沖農G7」

先端技術を結集した園芸品目競争力強化事業

背景・目的

「アバシ」と呼ばれる在来の短太系のニガウリは、苦みがマイルドでみずみずしい食感が特長であり、ニガウリの消費拡大といった面で消費者の多様な嗜好性に対応できます。

沖縄県農業研究センターでは、「アバシ」の特長はそのままに、果実長をより長く、また収量性を向上させた新品種「沖農G7」を育成しました。

従来のアバシよりも果実が長く大型で多収！
苦みがマイルドでみずみずしい食感、サラダにも合う！！



沖縄県農業研究センター

果形

- 従来の「アバシ」と比べ果実径は同等、果実長は長く、果実重は重い。

品種・系統	果実重 (g)	果実長 (cm)	果実径 (cm)
研交7号	361	24.1	6.8
アバシ	239	18.5	6.8

※促成栽培：定植 2017年10月12日、受粉開始 11月24日、
収穫期間 2017年12月18日～2018年4月30日



図 左：「研交7号」 右：「アバシ」

官能評価

- 従来の「アバシ」よりも苦みがマイルドでみずみずしい食感

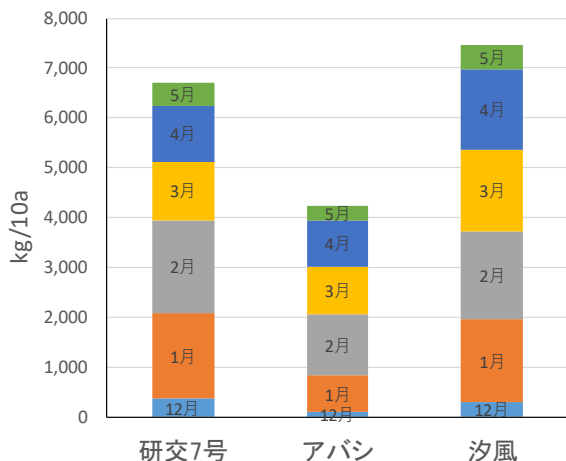
品種・系統	官能評価	
	苦み	みずみずしさ
研交7号	-0.9 b	1.0 a
アバシ	-0.5 a	0.7 b

※評点は「汐風」を基準品種とし、「苦み」については数値が大きいほど苦みが強く、「みずみずしさ」については数値が大きいほど、みずみずしいことを示す。

※異符号間には多重比較検定 (Tukey-Kramer) の結果5%水準で有意差があることを示す。

収量性

- 収量は「アバシ」の約1.5倍、「汐風」とは同等



※促成栽培：定植 2018年10月18日、受粉開始 12月7日、
収穫期間 2018年12月24日～2019年5月8日

栽培上の留意点

1. 推奨作型は、促成栽培、早熟栽培。
2. 果実が大型なことから、一果あたりの着果負担が大きく、草勢低下による過熟果や短形果が発生しやすい傾向がある。そのため、草勢を見ながら着果数を調整する。
3. 果実肥大が良いため、アザミウマ類の食害を幼果時に受けると被害痕が目立つ場合があるので、適切な防除を行う。

お問合せ先

沖縄県農業研究センター

電話：098-840-8500

E-mail：xx049400@pref.okinawa.lg.jp

http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/noken/index.html

沖縄県農研

検索

